

金賞 小林隆行君

北海道工業大学工学部建築学科 密度の森～アフォーダンスによる建築～

アフォーダンス、物体が持つ属性（形・色・材質・・・etc）が、物体自身をどう扱ったら良いかのメッセージを物体自体がユーザーに発しているというものであり、知らずとも物体のほうから扱いを教えてくれるという現象を建築化したものである。高分子材料（ゴム・樹脂）のチューブが主たる材料となり床壁の全てがチューブの長さや固さなどにより構成され、さらに構造や断熱にもなり、また長短の状況により座る、転がるなどのアクティビティが誘発され魅力ある空間となっている。人間を包む住居としての可能性をある側面から徹底的に追求した秀作となっている。平面計画にも提案があると欲はひろがる。

（文責：小西 彦仁君）

